

第8回
医療観察法地域連絡会議 資料

平成22年12月14日

独立行政法人国立病院機構
東尾張病院

第1部
医療観察法 全国の状況

厚生労働省ホームページの
「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及
び観察等に関する法律の規定の施行の状況に関する報告に
ついて」
および
「障害者福祉 心神喪失者医療観察法」
を参照した。

東尾張病院作成

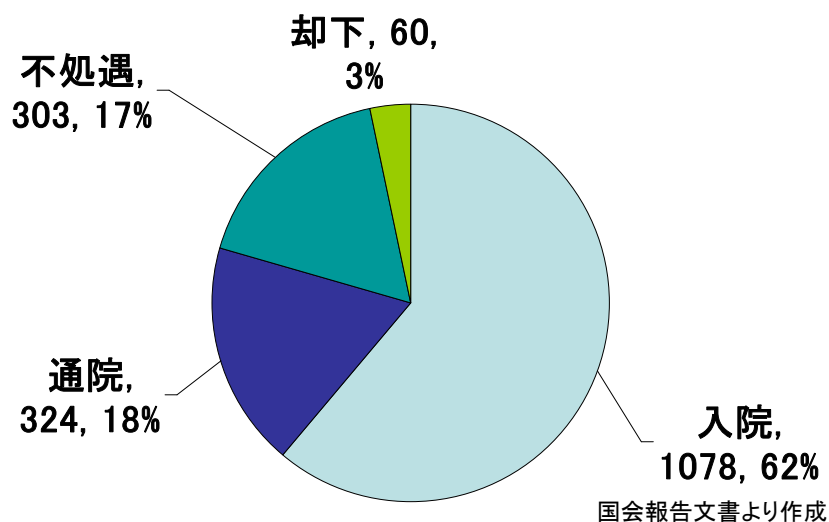
医療観察法にかかる審判の状況（施行～平成22年7月31日までの状況）国会報告

- 入院等の決定人員 合計 1,765件
 - ・入院決定 1078件(61.1%)
 - ・通院決定324件(18.4%)
 - ・不処遇決定 303件(17.2%)
 - ・申立却下 60件(3.4%) ※1
- 退院等の決定人員 合計 2,720件
 - ・入院継続確認等2102件
 - ・退院許可475件
 - ・処遇終了119件
 - ・不適法却下 24件
- 処遇の終了等の決定人員 合計 150件
 - ・通院期間延長等13件
 - ・処遇終了137件
- 再入院等の決定人員 合計 12件
 - ・入院10件
 - ・棄却1件
 - ・処遇終了1件

※1:対象行為を行ったと認められない場合または、心神喪失者及び心神耗弱者のいずれでもないと思われる場合

国会報告文書より作成

医療観察法施行状況 平成22年7月31日



医療観察法にかかる医療等の状況 (平成22年7月31日時点の状況) 国会報告

○入院による医療

- ・医療を受けている者 480人
- ・退院した者608人 平均在院日数 574日

○通院による医療

- ・医療を受けている者 520人
- ・通院による医療を終了した者 279人

○地域社会における処遇

- ・精神保健観察が実施された者 799人
- ・期間満了により終了した者 104人
- ・処遇終了決定により終了した者 138人
- ・再入院決定により終了した者 10人

国会報告文書 より作成

医療観察法の施行状況

(平成22年7月31日現在) 国会報告

1. 指定入院医療機関の数

○国関係	14ヶ所	445床
○都道府県関係	10ヶ所	121床
合計	24ヶ所	566床
(厚労省9月30日時点合計25ヶ所 599床)		

2. 指定通院医療機関の数

病院	345ヶ所
診療所	23ヶ所
病院又は診療所に順ずるもの	66ヶ所
薬局	2333ヶ所

国会報告文書より作成

医療観察法の施行状況

(平成22年7月31日現在) 国会報告

3. 鑑定入院医療機関の推薦数(厚生労働省6月30日)

推薦数 266ヶ所

4. 精神保健判定医等の名簿記載数

- 精神保健判定医 905名
平成17年度449名 18年度659名 19年度796名
20年度873名 21年度905名
- 精神保健参与員 737名
平成17年度405名 18年度524名 19年度621名
20年度714名 21年度737名

国会報告文書より作成

指定入院医療機関の整備状況

平成22年9月30日 現在 障害福祉部

1. 国関係

※ ■は稼働中の指定入院医療機関

①国立病院機構花巻病院(岩手県)	33床	■
②国立病院機構下総精神医療センター(千葉県)	33床	■
③国立精神・神経センター病院(東京都)	66床	■
④国立病院機構久里浜アルコール症センター(神奈川県)	50床	■
⑤国立病院機構さいがた病院(新潟県)	33床	■
⑥国立病院機構北陸病院(富山県)	33床	■
⑦国立病院機構小諸高原病院(長野県)	17床	■
⑧国立病院機構東尾張病院(愛知県)	33床	■
⑨国立病院機構榑原病院(三重県)	17床	■
⑩国立病院機構松籟荘病院(奈良県)	33床	■
⑪国立病院機構鳥取医療センター(鳥取県)	8床	■
⑫国立病院機構賀茂精神医療センター(広島県)	33床	■
⑬国立病院機構肥前精神医療センター(佐賀県)	33床	■
⑭国立病院機構菊池病院(熊本県)	23床	■
⑮国立病院機構琉球病院(沖縄県)	33床	■

指定入院医療機関の整備状況

平成22年9月30日 現在 障害福祉部

※ ■ は稼働中の指定入院医療機関

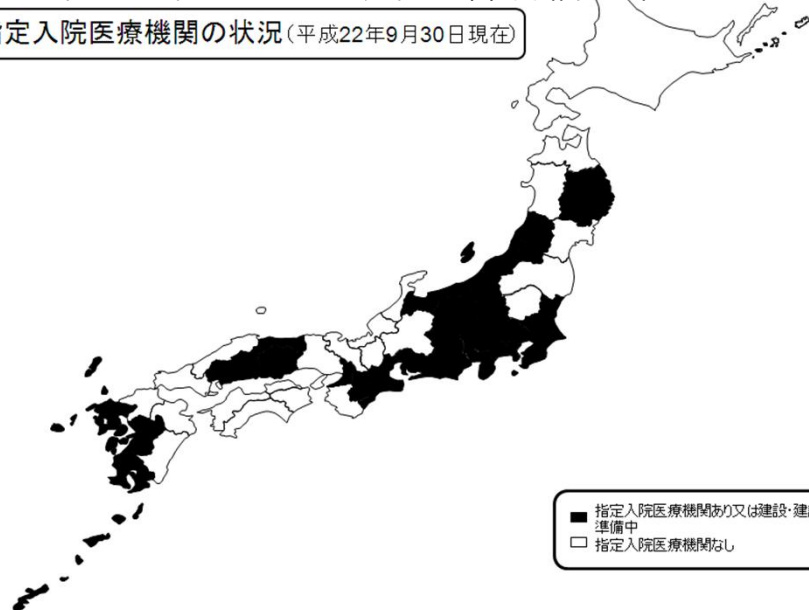
2. 都道府県関係

①群馬県立精神医療センター	6床	
②東京都立松沢病院	33床	
③神奈川県立精神医療センター 芹香病院	2床	(将来33床で運営予定)
④山梨県立北病院	5床	
⑤長野県立駒ヶ根病院	1床	(将来6床で運営予定)
⑥静岡県立こころの医療センター	2床	(将来12床で運営予定)
⑦大阪府立精神医療センター	5床	(将来33床で運営予定)
⑧岡山県精神科医療センター	33床	
⑨長崎県病院企業団長崎県精神医療センター	17床	
⑩鹿児島県立始良病院	17床	
⑪山形県立鶴岡病院	17床	建設準備中
⑫茨城県立友部病院	17床	建設準備中
⑬埼玉県立精神医療センター	33床	建設準備中

指定入院医療機関の整備状況

平成22年9月30日 現在 障害福祉部

指定入院医療機関の状況(平成22年9月30日現在)



第2部

東尾張病院 入院対象者の状況 平成22年7月15日時点

東尾張入院中 申立て県

H21年7月15日と平成22年7月15日の比較

平成21年7月15日時点

○東海北陸 25名
(愛知15静岡7三重1岐阜2)

その他8名

○東北北海道 1名
(北海道1)
○関東甲信越 2名
(埼玉2)
○近畿 5名
(大阪1兵庫3京都1)
○中国四国 1名(愛媛1)
○合計 34名

平成22年7月15日時点

○東海北陸 25名
(愛知19静岡4三重2)

その他5名

○近畿 4名
(大阪1兵庫2和歌山1)
○中国四国 1名
(愛媛1)
○合計 30名

東尾張病院 入退院者数

平成22年7月15日 現在

《 入院対象者受け入れ累計 101名 》

○入院中 30名

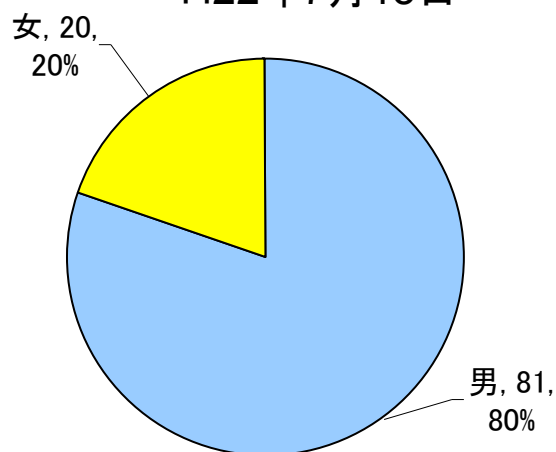
○転院者 13名

○退院者 58名

(退院者のうち、処遇終了者 8名)

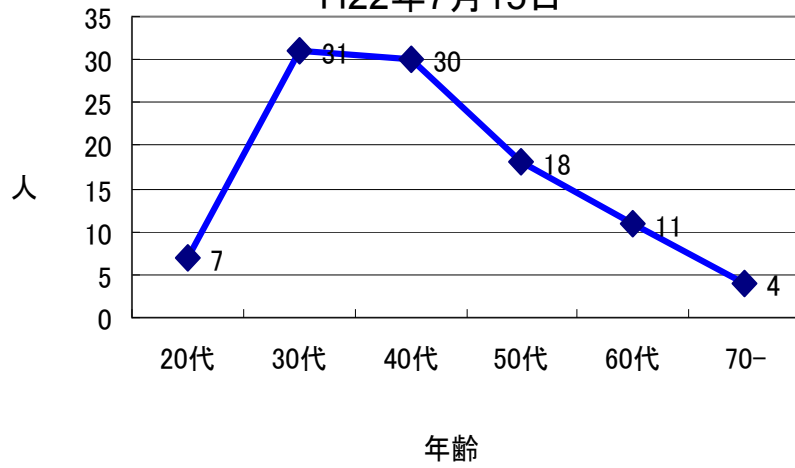
東尾張病院受入101名男女比

H22年7月15日

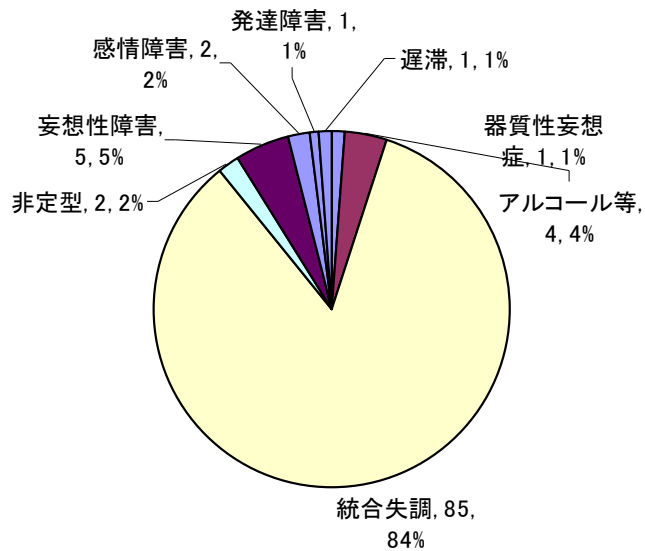


東尾張病院受入101名年齢構成

H22年7月15日

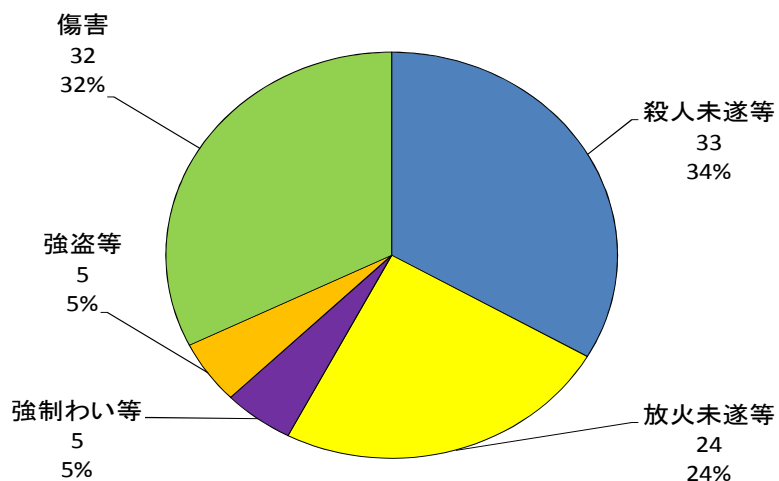


東尾張病院受入101名診断名 H22/7/15



東尾張病院受入101名対象行為

H22年7月15日



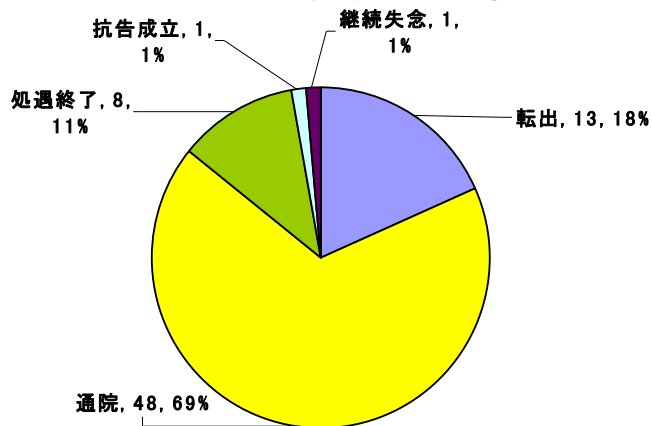
入院対象者 治療ステージ別

平成22年7月15日 現在

- 急性期 3名 (男3名 女0名)
- 回復期 15名 (男13名 女2名)
- 社会復帰期 12名 (男9名 女3名)

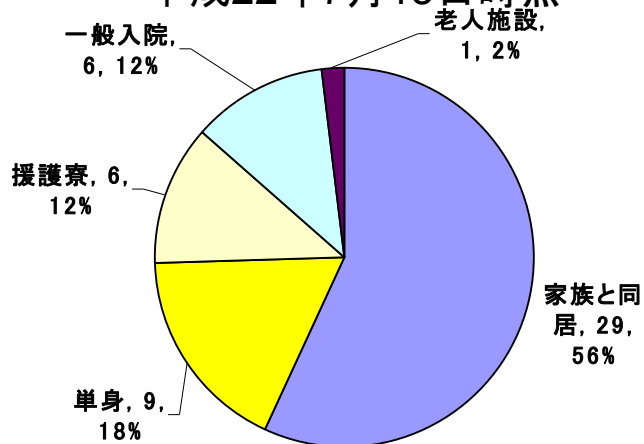
東尾張病院 転院・退院者71名

平成22年7月15日時点



東尾張病院通院移行者居住先

平成22年7月15日時点



東尾張病院処遇終了者の状況

平成22年7月15日 現在

《 処遇終了者、8名の帰住先 》

○入院（精神保健福祉法）	6名
○グループホーム	1名
○自国へ帰国	1名

統合失調症とは 病気の説明

- 10代から20歳代の青少年を中心に40代くらいまでに起きやすく慢性化傾向のある疾患です。約100人に1人の割合でかかる病気です。
- 原因ははっきりしておらず、その人のもって生まれた素質、生まれてからの能力・ストレスに対する対応力、ストレスを引き起こすような環境要件などが絡み合って発症します。
- 脳内には神経伝達物質と呼ばれる物質が存在し、その量の異常・不均衡の存在が指摘され、薬物療法と関連した研究が進められています。

統合失調症とは 主な症状と治療

【主な症状】

幻聴・妄想・思考障害など普通には見られない症状が出現する陽性症状、エネルギーが無くなって意欲低下や自閉傾向を示し、社会機能が普通より低下する陰性症状があります。

【治療】

薬物療法、精神科リハビリテーション、精神療法などを組み合わせた適切な治療を継続することで、症状が安定し、その結果、社会復帰が可能となることが多くなりました。

統合失調症と医療観察法の関係

- 幻覚妄想などの症状がとても大きな影響を与えて(または支配して)触法行為・他害行為が起きた時には、刑事責任能力がとても低下した(または無い)と法的に評価される場合があります。その場合、刑罰を科されず医療観察法の治療対象となることがあります。
- 医療観察制度では、統合失調症の患者の比率が高いですが、統合失調症者が触法行為・他害行為全体を起す確率は一般よりも少ないと言われています。

妄想性障害とは

- 事実と異なることを確信し、他の人が指摘しても訂正することができず、妄想を何年も持ち続けるのが症状です。
- それ以外の症状はあまりなく、社会的機能が低下することなく働いている人も多いです。

感情(気分)障害とは

- うつ病および躁うつ病のことです。
- ゆうつになるのは、誰にでもあることですが、うつ病では、夜中に目がさめる、食欲がなくなり体重が減って、ゆううつさは朝に強いなどの症状があり、病気です。
- 躁状態では、気分が高揚して、話好きになり浪費をしたり、夜も眠らず、怒りっぽくなったりするなどの症状が現れます。

広汎性発達障害とは

- 関心の幅がせまく独特のこだわりがあり、対人関係の障害、コミュニケーションの障害があるので、社会と相互に関係するのが不得意な障害です。
- 5歳未満から、特徴がみられます。
- 原因はまだ特定されていませんが、多くの遺伝的な要因が複雑に関与して起こる、生まれつきの脳の機能障害が原因と考えられています。胎内環境や周産期のトラブルなども、関係している可能性があります。親の育て方が原因ではありません。